

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

August 2021 vol.88

August						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◆伊勢湾台風締切記念碑

所在地：桑名市長島町

交通：伊勢湾岸道「湾岸長島」IC 西約 800m

昭和 34（1959）年の伊勢湾台風では、木曾三川河口部において高潮により堤防がいたるところで破堤し浸水、当時の三重県桑名市、長島町、木曾岬町及び愛知県弥富町では、死者 1,236 人、全壊家屋 3,355 戸、流失家屋 763 戸と、史上稀にみる甚大な被害となりました。

三重県側の堤防締切にあたり、当時の中部地方建設局が工事を実施することとなりましたが、締切を必要とする破堤箇所は 18 ヶ所にも及び、資材の入手・陸上輸送が困難な状況でした。このため、ポンプ浚渫船により、河床の土砂を締切箇所に吹き貯める工法が採用され、できるだけ早く、効率よく湛水区域を減少させるために、地区ごとで締切の順番が選定され、工事が進められました。

桑名市長島町の揖斐川左岸白鷄地区は、三重県側の締切工事の最終地点となった場所です。白鷄地区が最終締切地点に選定されたのは、木曾川に比べ資材運搬が容易で、かつ水深が浅く土砂を多量に採取できること、汐止め箇所の背後に民家が存在しないこと、などの理由からでした。白鷄地区の工事は、被災から 53 日目の 11 月 18 日に完了し、すべての締切が完了しました。

昭和 36 年 11 月 18 日には、最後の締切となった当地に、工事の偉業を後世に伝えるための伊勢湾台風締切記念碑が建設されました。



(上) 懸命の復旧工事
(下) 最後の仮締切工事が完了し万歳を叫ぶ人々

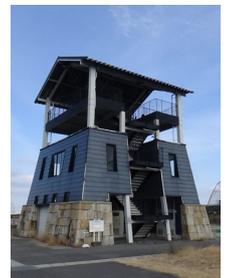
切記念碑が建設されました。碑の銘板には「昭和 34 年 9 月 26 日夜来襲した伊勢湾台風によって木曾揖斐長良三川の堤防は寸断された。これらの堤防の汐とめ工事は多くの人人のうるわしい協力によってすすめられ最後の締切りは大汐時にあったにもかかわらず 53 日目の 11 月 18 日 16 時 10 分この地において完了した」と記されています。

その後、平成 11 年から、この白鷄地区では水防拠点施設整備事業が施行され、ヘリポートを備えた白鷄防災ステーションが整備されました。事業に合わせて、当初の伊勢湾台風締切記念碑は取り壊されましたが、その銘板を残し、平成 11 年 11 月 18 日に新しい記念碑が建設されています。碑の前面は当時の波返し^{はがし}の形を再現し、側面は河川改修事業が多くの人々の尊いたゆまぬ努力により成り立っていることを表すため、「人」形にかたどられています。



伊勢湾台風締切記念碑

防災ステーションには、伊勢湾台風記念館も建設されています。記念館は、伊勢湾台風などの災害を忘れず、防災意識を高めるために建設されたもので、2 階には展示室が設けられており、伊勢湾台風に関する写真やパネルなどの資料が展示されています（見学は桑名市に要予約）。また、1 階は備蓄倉庫、3 階は展望台となっており、昼間は長島町の街並みや伊勢湾が見渡せるほか、夜景の人気のスポットにもなっています。



伊勢湾台風記念館



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたととも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆伊勢湾台風締切記念碑の周辺には…

● 鍋田神社

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス「鍋田」停 南東 約 1.3km

鍋田神社は伊勢湾台風の10周年記念事業の一つとして、昭和44年に造営されました。当地には現在、「伊勢



湾台風殉難之碑」と「伊勢湾台風殉難者慰霊観音」があります。



● 伊勢湾台風殉難之塔

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス「西末広」停 西 約 800m

各地に建立されている伊勢湾台風の慰霊施設の中でも、ひときわ高い慰霊塔です。頂上に青銅製観音像が安置され、両側に、明像（母親が流木の間から愛児を抱き上げ頬ずりして喜ぶ像）と暗像（父親が、変わり果てたわが子を自衛隊員の助けを得て収容している像）が彫塑してあります。



● はっぼしんでん 八穂新田（八穂地蔵）

所在地：弥富市鍋田町 交通：弥富市コミュニティバス「鍋田」停 北 約 250m

現在の鍋田新田の一部にあたる八穂新田は、江戸時代の末から干拓が行われましたが、水害で何度も破堤を繰り返し、嘉永7（1854）年安政東海・南海地震と翌年の暴風雨により亡所となったとされています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 桑名石取祭

桑名石取祭は、華麗な装飾を施した30数台の祭車が鉦や太鼓を打ち鳴らしながら練り回る「日本一やかましい祭り」と言われ、毎年8月第1土・日曜日に開催されます。2016年12月には、「山・鉦・屋台行事」として、ユネスコ無形文化遺産に登録されています。

試楽と呼ばれる土曜日の午前0時、各祭車が鉦・太鼓を叩き始める叩き出しで始まり、本楽の日曜日の午後からは、各祭車が組ごとに列を作り、順番に曳き揃えを行います。午後6時半頃からは春日神社への渡祭が順次行われ、午後10時に祭車曳き別れとなります。（2021年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、祭車の曳き回し、鉦鼓の打ち鳴らしは休止）



桑名市 HP より

みえの農産物

「なばな」は、油を搾るために栽培されていた菜種の花が咲く前の若菜を摘み取ったもので、菜種の大産地だった三重県では、昭和30年頃に「なばな」として食用に出荷されるようになりました。



三重県 HP より

三重県は日本一の産地で、「三重なばな」は、美し国「みえの伝統野菜」に登録されています。独特のほろ苦さと香りが特徴で、和え物や汁物、炒め物やまぜごはんなど、様々な料理に利用されます。

● ブレイクタイム ●

♪ なばなの里

なばなの里は一年中、様々な花や木が楽しめる、東海地方を代表する花と緑のテーマパークです。四季折々に季節のイベントが開催されますが、特に冬から春にかけてのイルミネーションは国内屈指の人気を誇ります。里内では、日帰り温泉「里の湯」で露天風呂も楽しめるほか、無料の足湯スペースで天然温泉に触れることもできます。また、和洋中、様々なジャンルのレストランがあり、地ビール醸造所がある「長島ビール園」では出来立ての地ビールを楽しむこともできます。



なばなの里 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2021年8月）